

大豆の播種期が成熟異常・収量に及ぼす影響

コンバイン収穫における汚損粒の発生は等級格下げ要因のトップとなっています。その原因の一つとして、成熟異常（莢先熟）があげられます。

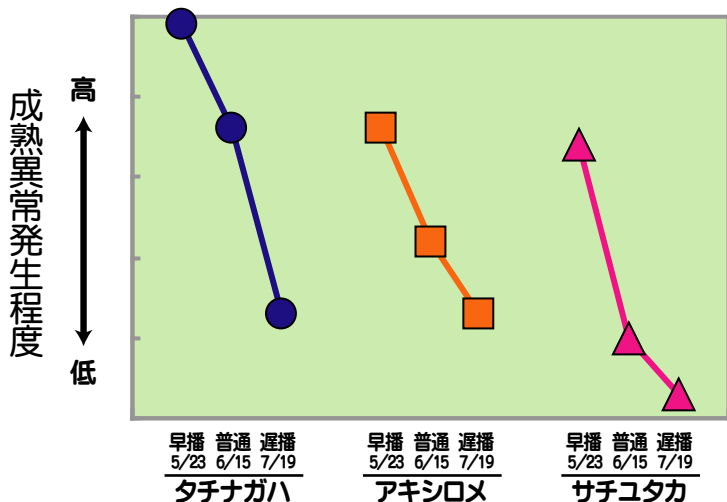
早播き栽培では低収になるばかりでなく、成熟異常の発生程度も高くなります。安定した収量や品質を得るためには、適期播種に努めましょう。

成熟異常は

- 早播きにするほど発生程度が高くなります。

（開花期が早く、成熟までの期間が長いことから、虫害や気象条件の影響を受けやすいため、シンクとソースのバランスが崩れ、成熟異常を助長すると考えられます。）

- 品種では早生品種の発生程度が高くなります。



異常成熟の発生状況

収量・品質（検査等級）は

- 早播きでは生育量が確保されるものの蔓化傾向となり、低収となります。また、外観品質も低くなります

- 遅播きでは生育量が十分確保できず、低収となりますが、外観品質は高くなります。

